



寺紋
ひいらぎ おもだか
格 かこみ 沢瀉
おもだか
(通称 大閑沢瀉)

大雄寺報

= 第8号 =

平成21年1月1日発行

発行所 黒羽山 大雄寺

〒324-0233
栃木県大田原市黒羽田町450
TEL 0287-54-0332
FAX 0287-54-0330
編集発行人: 住職 倉澤良裕
印刷所: タキザワ印刷



境内でのロケ



本堂廊下でのロケ



ラカンの丘でのロケ

映画の撮影風景

曹洞宗開祖道元禅師の生涯が映画になりました。タイトルは「禅・ZEN」です。大雄寺が曹洞宗の大本山「永平寺」としていくつかのシーンが撮影されました。本年1月10日から全国ロードショーです。是非劇場映画館でご覧ください。

「禅・ZEN」映画 大雄寺でロケ

曹洞宗開祖

道元禪師の生涯を描いた映画がいよいよ全国ロードショーです。

この映画のロケは大雄寺で行われました。昨年四月七・八日の両日、大雄寺を永平寺に見立て、本堂や回廊、総門、境内などでさまざまなシーンが撮影されました。

平成二十一年一月十日から全国ロードショーです。

〈上映案内〉

栃木県・MOVIX宇都宮、小山シネマロブレ5

東京都・角川シネマ新宿、シネカノン有楽町2丁目、アミューズCQN

神奈川県・TOHOシネマズららぽーと横浜、シネプレックス幕張

千葉県・千葉京成ローラー10、シネプレックスわかば

埼玉県・シネプレックス水戸

茨城県

県内の住職らも参加して行われた映画ロケ

大田原市黒羽田町の人
大雄寺、福田守敬義



大田原・大雄寺で映画ロケ

曹洞宗の開祖道元の
生涯を描く映画「ZEN
N(仮題)」のロケが

七、八の四日、神奈
古郷として知られる大

田原市黒羽田町の大雄
寺で行われた。同寺を

開祖の映画だけに、

「當時の永平寺に見立
て、本堂や山門などで
さまざまなシーンが撮
影された。」

定だ。

下野新聞 平成20年4月9日に掲載

道元禅師（中村勘太郎）と住職



懐奘禅師と住職



黒羽藩主大関氏と菩提寺

黒羽芭蕉の館平成20年度企画展
【平成二十年十一月一日から】

— 大雄寺の宝物を中心として —

十二月七日

黒羽藩主大関氏と大雄寺との関係資料や藩主木像、絵画などの寺宝を一般に公開する企画展が黒羽芭蕉の館で開催されました。

大雄寺が黒羽藩主大関氏の菩提寺となつて五六十周年を記念しての開催で、今まで公開したことがない宝物を一堂に展示されました。

黒羽山大雄寺は、江戸時代の文安五年（一四四八）黒羽藩主大関氏の菩提寺として庇護のもと、大関家の歴代藩主並びにその親族の葬儀ならびに法要を実施することを本務として、あわせて大関家中（黒羽藩士）を檀家として、幕末に至るまで寺の運営がなされていました。

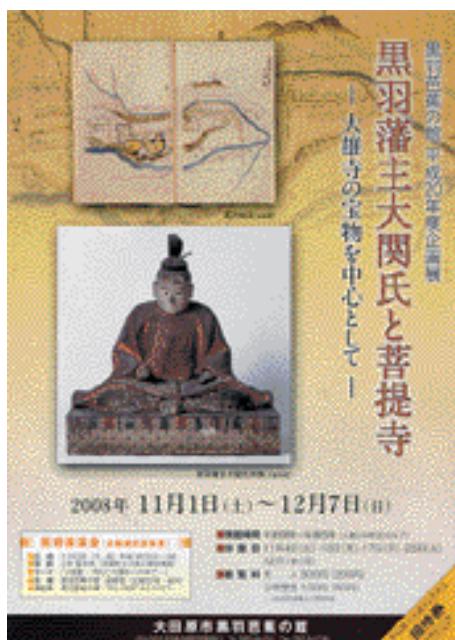
しかし、明治維新によって従来の藩体制が消滅したことにより、大雄寺は大関家の庇護のもとを離れることとなり、従来の檀家に加え、旧黒羽藩士以外にも、明治以降廢寺となつた末寺（長泉寺や正法寺や長渓寺や長松院など）の檀家を多数受け入れるなどして存続をはかり、現在に至っています。

大雄寺の歴史を語る古文書が多く保存されていますが、その中に明治廃藩後も維持困難から檀家代表の会議がもたれた協議録があります。内容は伽藍維持のための方策であり三つの方法が提案され検討されています。

第一案は伽藍の縮小。第二案は宝物の売却。第三案は寄付金の募集。

検討に検討を重ねた結果檀家による寄付金をもつて維持することを決定しましたと記されています。

原文（大正八年の協議録）は次のとおりです。
「文安五年伽藍ヲ建立シ、本尊觀世音菩薩ヲ安置シ、大関家ノ菩提所トナシ寺計イ黒羽藩ノ經營スル所トナリ巍然タル禪堂南ニ峙（そばた）チ喚乎（かっこ）タル經藏、輪藏シテ休歇（きゆうけつ）スルナリ廻廊ハ四十六間ニ及ビ儼然タル大伽藍ハ黒羽山頭ニ聳（そび）エ実ニ有数ノ巨刹タリ爾來物換リ星移リ大関家維新ノ革命ト共ニ封土ヲ奉還セラレ當寺ノ經濟ハ単ニ檀越ノ負擔（ふたん）ニ帰シ即チ布施及ビ佛供米ノ收入ヲ以テ之ニ充テ來タ



昭和、平成へと長きにわたり維持してきたことがうかがい知ることができます。

今回の芭蕉の館での企画展は、大雄寺の歴史と文化的価値を認識する上で重要なことであります。私、大雄寺住職として、「大雄寺 寺宝展」と言える今回の展示会は、長年の念願がありました。

第九回 ぼたんコンサート

平成二十年五月十一日

中国のいにしえの響きと幽玄な音色
が咲き誇る牡丹の境内に響き渡りました。

第九回 定期演奏会

村岡眞理



ボタンの花と音楽に慰め草を求めた二百有余名の方々をお迎えして、今年も又「大雄寺定期演奏会」が五月十一日に開かれ、素朴な大伽藍は中国古典樂器の七弦琴と二胡の繊細で幽玄な調べに包まれ、参加者は一時彼の地の悠久の昔に想いを馳せました。

日光等で名残りの雪が降る程の寒さに加え、前日からの雨が降り止まない悪天候の為、主役の一人であるボタンの花にとって、少々可哀相な状況でしたが、本堂を埋め尽くした参加者と演奏者をはじめとした主催者の熱気が悪条件を吹き飛ばしてくれました。

「七絃琴」は、七本の弦からできて
いる琴で、今から約三〇〇年前の元禄
定期演奏会は、今年は第九回「七絃琴
と二胡」の演奏会で五月十一日に開催
いたしました。

毎年、牡丹開花に合わせて開催する定期演奏会は、今年は第九回「七絃琴と二胡」の演奏会で五月十一日に開催いたしました。

もう一人の主役は、江戸時代初期に明朝からの帰化僧の東皋心越禅師が、日本へ伝えた七絃琴。心越禅師は徳川光國の招きにより水戸祇園寺を開堂しましたが、元禄六年（一六九三年）に

那須温泉の帰路に大雄寺を訪れ、第十三代廓門貫徹和尚と出会っています。現在でも総門に掲げられる「靈鷲」と、禅堂に掲げられる「學無為」の篆書額を寄贈したとの記録が残っています。今回の演奏会が企画されたもので、大雄寺と浅からぬ縁あることから樂器の研究家で古琴、並びに二胡の演奏の第一人者である坂田進一先生。後半には若手ピアニストで二胡の演奏家としても知られる坂田門下生の小西祐

七弦琴の演奏者は日本での中国古典樂器の研究家で古琴、並びに二胡の演奏の第一人者である坂田進一先生。後半には若手ピアニストで二胡の演奏家

としても知られる坂田門下生の小西祐

七絃琴の調べ 堪能 大田原

【大田原】

古樂器演奏

は、古く初祖は田が
ら「本にむかひた七絃
琴などを紹介。七絃琴

を伝えた帰化僧が入雛

寺を訪れていたことか
ら企画した。

七絃琴は、稀形式で
の定期演奏会が開か
れ、中国古樂器の七絃
琴や二胡などの調べが
本堂で演奏された。七絃
琴は、坂田進一さんが
本堂で演奏した。

坂田進一さんは、七絃琴

が横開式の七絃琴で、
同様に日本、ボタン
が演奏した。

七絃琴は、七絃琴がな
いため、繊細で神秘的
な音色が特徴。古曲の
「半沙蓮」など六曲
が演奏され、訪れた所
の参加者は幽玄な調
べに耳を傾けていた。

また、ジャズやへな
めじシャンソンの古
楽が披露されている。
九回目となる今回



坂田で神秘的な音色が特徴の七絃琴の演奏

下野新聞 平成20年5月14日に掲載

子さんが加わり、二胡とピアノの息の合ったアンサンブルを披露して戴きました。

初めて耳にする七絃琴の生の音色は優美で、その音量は極めて細かいもので、坂田先生のお話によれば、元々七絃琴は大勢の人に聴かせることを前提としたものではなく、自分自身を慰め、楽しむもの、或いは自分の心に乱れがないかを自らに問い合わせながら演奏するものとのことでした。禅も又、「只管」坐ることにより、自分の内面に向かうこと

ものであり、七弦琴と禅と共に通するものがあるとの想いを抱かれた方もおられたのではないかと思います。

当日参加された方々が、そば降る雨の中でのボタンの花と中国古典楽器によるコラボレーションを「只管」楽し

大雄寺てらスクール

ーいのち見つめようー 平成二十年八月十日

今回で第三回となるてらスクール、本年は、いのち見つめようをテーマに坐禅、作務などを修行体験した後、DNAについて学びDNAの抽出など科学実験を行った。このてらスクールは、坐禅会（雄禪会）の会員による企画し実施している年間行事の一つである。夏休みの一日を寺で生活する親子対象の寺子屋である。平成二十年八月十日に実施し参加者二十七名でした。

講師は東北大学大学院 渡辺正夫教授、東北大学大学院生 長谷川祥子さん、同院生 倉澤香澄さん。

（テーマ）

地球上には六十六億人を超える人間が生きています。私たちはそのうちのたった一人として、この地球に命を与えられました。人間も、動物も、植物も虫達も一人一人、ひとつひとつの大

んで戴けたとするならば、雄禪会メンバー一同としてこの上ない喜びであります。来年の演奏会迄に次なる慰め種を捜し求め、育てることが出来るならばと想いつつ雨上りの大雄寺を後に致しました。

んで戴けたとするならば、雄禪会メンバー一同としてこの上ない喜びであります。来年の演奏会迄に次なる慰め種を捜し求め、育てることが出来るならばと想いつつ雨上りの大雄寺を後に致しました。
あらゆる生き物は全てDNAで設計されていて、ムシもカエルも鳥も犬も猫も私たちも植物も、みんなDNAでできてるんだよ。
だから、全てのものに命がある、ということを、一つ一つの細胞が「生きている」ということ。

（パズルの話の中で、遺伝子の設計図をもとにアミノ酸を並べてタンパク質を作り、それで体を作ります）
「では、このアミノ酸はどこからくるのでしょうか？」

大切な命を持っています。尊い生命、この命はどのような成り立ちでできているのでしょうか。坐禅を通して自分を見つめ、科学実験を通して命の【素（もと）】を見つめる。親子で命の不思議、大きさを見つめる一日を過ごしてください。

「毎日食べたものを分解して、体を作る材料にしているよ。よく、体を作るのは食べたものが大事、というのはそういうこと。

DNAだって、食べたものを原料に作られていて、しかもこのDNAのアルファベットの並び方はお父さん、お母さんから引き継いだものなんだよ。親子は似ている、というけど、それは遺伝子が似ているから、とも言えるんだね。

つまり、あなたの遺伝子もいつの日かその子供たちの遺伝子につながって行くんだよ。
どんなものを食べるか、ということが、すごく大事って、わかったかな？！
毎日好きなものばかり食べていると、

DNAでなーに？

体の作り方の通りに自分の体を作れないんだよ。それだけでなく、未来の命の体の作り方にも影響してしまうんだよ。

未来の命のためにも、今、たくさん命を分けてもらつていっぱいいろんなものを食べようね。」



修了証 授与



食事作法

てらスクールで見つめる いのちの素

目面 靖浩

「いのち」

今年のてらスクールのテーマは「いのちを見つめる」ということになりました。

企画は二月あたりから始まりました。今年で第三回目になる「てらスクール」のテーマは何がいいか、雄禪会で話しあっているところ、ご住職のお嬢さんである香澄さんが科学について子供達に教えることができるということを聞いたのです。

てらスクールで科学?なんだか関連がなさそうで、どうまとめていくか頭をひねったのでした。

五月、雄禪会のメンバーとご住職を交えて香澄さんとミーティング。DNAを取り出す簡単な実験ができるこ

とを聞きました。しかしながらテーマとして何がいいかまたまた首をかしげてしまふたのです。しかもその場にいる人皆が。うんと悩んでいると、メンバーの一人がDNAとは一人一人がかけがえのないのちを持つているのだということをテーマにすればいいのではと提案がありました。まだま

ぐを終え、香澄さんと具体的に何をするかEメールのやりとり開始です。おりしも講談社から出版されていた「生物と無生物のあいだ」という新書を手にとり、DNAの不思議さと文章の巧みさで、もしかすると面白い企画になるのではという予感がしたのです。

香澄さんにもこの本に目を通してもら「いのちの素を見つめる」というテーマに決定しました。

六月から参加者の募集を開始。下野新聞でも協力頂いて二十七名の方が参加してくれました。

八月十日当日は板橋市片岡三区行政区分が開催した親子坐禅体験の参加者も含めて四十八名で坐禅、作務を行いました。中食からは「てらスクール」の参加者のみです。

何もしゃべらずに食事を取るという体验では緊張した子もいました。

そして、いのちを見つめる実験の開

始。

香澄さんと一緒に長谷川さんがお手伝いに来てくれて、子供達を二班にわけ、香澄さんはバナナからDNAの抽出、長谷川さんがパズルや模型を使いながらDNAの解説です。最初は子ども達も難しそうな顔をしていましたが、徐々に話しにつられて机に上に身をのりだしたり、抽出したDNAを恐る恐る触ったり、質問をしたりでいのちの不思議に引きづりこまれてきました。

最後に渡辺教授から植物のことについてプロジェクトを使いながらの講義です。不思議に引きづりこまれていました。最後に渡辺教授から植物のことについてプロジェクトを使いながらの講義です。

「禅と科学」そして「いのち」。これらがどのように融合するか最初はイメージできなかったものの、この一日を通して子供達の表情の変化を見ていくと、決して遠く隔てられたものでなく説明している言葉が違うだけなのではと気づかされた今年の「てらスクール」でした。



自分見詰め、命考える

大田原でてらスクール

【天野原】(天野原) 天野原でてらスクール
【大雄寺】(大雄寺) 大雄寺でてらスクール



座禅を体験する子どもたち

禅と科学で — 命見つめて —

来月10日「てらスクール」

【天野原】(天野原) 天野原でてらスクール
【大雄寺】(大雄寺) 大雄寺でてらスクール

下野新聞
平成20年8月13日に掲載

下野新聞
平成20年7月7日に掲載

のを持つている、ということは一人一人がかけがえのないのちを持つているのだということをテーマにすればいいのではと提案がありました。まだまだ自分の中では消化不良のミーティング

総門の奥に建つ大きなかやぶき屋根を冠した本堂。境内に広がる静寂とともに神秘的な空間を生み出す＝大田原市黒羽田町の大雄寺＝



故郷とちぎ

130年後に残したい

26

大雄寺
(大田原市)

重厚さと風格のかやぶき

日々の喧騒とは無縁の、ゆったりとした時間が流れている。森に伸びる石造りの参道。いにしえの雰囲気たっぷりの総門や回廊。かやぶき屋根を冠し、重厚なたたずまいを見せる本堂。辺りには、鳥のさえずりと木々のざわめきのみが響く。大田原市黒羽田町の大雄寺。曹洞宗の古刹で室町時代の一四〇四年に創建。黒羽藩主大関氏の菩提寺として知られ、一五七六年に黒羽城築城の折に現在地に移築された。本堂や総門、回廊のほか、禅堂、庫裏、鐘楼堂すべてがかやぶきという希少などから、一九六九年に県有形文化財の指定を受けた。

ヨシやススキを用いる「かや」の寿命は二、三十年。県外から専門の職人を呼んで行うふき替えは、寺にとって一大事業だ。屋根を覆い、屋根のかやをほぐし、新たなかやで丁寧にふいていく。九八年の本堂ふき替えは、十数人の職人で延べ二年を費やす大作業だった。約七千万円という費用は寺のほか、県からの補助、檀家らの浄財などでまかなった。倉沢良裕住職は「代々受け継がれてきた財産を守り、生かしていくことが寺の本来あるべき姿」と話す。

また、古くから禅の修行道場で、静かな所で自分を見つめ直したいと訪れる人も多い。毎月第二、四日曜日の朝に禅堂で行う座禅会には毎回、県内外から約二十人が参加している。近年は座禅を取り入れた研修を行う企業もあるという。

檀家で近くに住む主婦、新江チワノさん(八五)は「通い始めて六十年以上になるが、かやぶきの素朴さと風格は昔とまったく変わらないね」とつぶやいた。来訪者の多くは、何かに魅入られたようにしばらくはその場から離れない。人々をとりこにするその神秘的な力は、積み上げてきた歴史の重さを物語る。

(写真・文 柴山英紀)



下野新聞 創刊130周年記念企画

下野新聞 平成20年10月12日に掲載

心磨きの教え伝えた

明王が祭られている。
男女と車いす対応のバ
リアフリートイレで、広
さは約三十平方メートル。鉄筋
コンクリート造りだが、
屋根など建物上部は木を
ふんだんに使っており、藏
造り風の禅寺の風景にマッ
チしている。

【大田原】県が快適度の高いトイレと認証した「ちぎハートフルトイレ」に黒羽田町の大雄寺（倉澤良裕住職）の東司（とうす、禅寺のトイレの別称）がこのほど、寺院で唯一選ばれた。ハートフルトイレは県が本年度、十二市町の三十六カ所を初めて認証。倉澤住職は「寺にあっては掃除をするこ

とで自分の心を磨くということ、使う人がそのことを知つて、生活の中に取り入れるきっかけになつてくれれば」と話している。（鷹箸浩）

大田原の大雄寺



大雄寺は黒羽藩大関家の菩提（ぼだい）寺で、かやぶき屋根の本堂などは県文化財にも指定されている。同寺には旧黒羽町が駐車場内に建てた公民館が隣接する。

衆トイレがあつたが、老朽化したことなどから二〇〇四年に現在の境内の禅堂隣に建てた。近くにはトイレの仏像といわれる「烏瑟沙摩（うすさま）

ハートフルトイレは使

う人の快適さを目的にし

ているが、倉澤住職らは

あくまで、管理する自分たちのこととしてとらえ、

その結果使う人にも良い印象が残ればと考えてい

る。「トイレは心の鏡、

トイレを磨き心を磨こう」

を使う人も呼び掛けた

いという。

ちぎハートフルトイ

レは暗い、臭い、汚いの

「トイレの3K」から脱却し、観光地における觀

光客の満足度向上、県民のホスピタリティの機運

醸成を目的に本年度から実施。県と十三市町、十

企業、七団体から百三十

カ所の応募があった。

下野新聞 平成20年3月28日より掲載

県の快適トイレ認証

ハートフルトイレに認証された
大雄寺の東司と倉澤良裕住職

毎日の掃除欠かさず

雲水修行

梅木 伸治

四月より雲水修行に入り、振り返っ

てみると感慨深いことがいくつもあります。

以前から日曜坐禅会に参加させていただいてましたが、二月中旬に倉澤方丈さんに「お寺での修行に入らせてください」とお願いしたのも、「この方なら親身に相談に乗ってくれる」と感じ、何か縁があつてのことだと思いま

す。

桜の咲くころに実際に修行に入つてみると、朝夕の読経、慣れない雑巾がけ、法要の時の供物の供え方など戸惑うことばかりでした。長い時間正座が出来なかつた時は、この先続けられるかどうかとても不安でした。「継続は力なり」と云いますが、同じことを毎日続けることは、大変なことですが、身に付くと自信につながり、まさに力となります。

自然の今まで静かで時間が止まつたような空間に身を置くことが、人や物に感謝し、心優しくなってきているような気がします。木々や土に触れたり、鳥や虫の鳴き声を聴き、気候の移り変わりを知ることによって心の平静を保つのでしょうか。つくづく人間は、自然に生かされていることを感じます。

これからも、一日一日丁寧に大切にして、「大雄寺の雲水」としての自覚を持ち、精進していきたいと思います。自然に感謝。親に感謝。先祖に感謝。先輩に感謝。友人に感謝。そして、この修行に入れたことに感謝しています。

そして、人と触れ合うことの温かさを感じるようになりました。参拝の方々と、お寺についてお話をすることが好きですし、「いつも綺麗にしているね」と声をかけられると嬉しく思います。と声をかけられると嬉しく思います。来ていただいた人に少しでも「来てみて良かった」と感じていただけるよう心がけています。

一日の大半は、作務になりますが、中でも一番好きなのは、トイレ掃除です。磨きあがつたトイレを見ると、自分で良かつた」と感じていただけるよう心がけています。

そこで、お寺についてお話をすることが好きですし、「いつも綺麗にしているね」と声をかけられると嬉しく思います。と声をかけられると嬉しく思います。来ていただいた人に少しでも「来てみて良かった」と感じていただけるよう心がけています。

質問箱

た「魚のように昼も夜もなく修行に励みなさい」という理由ともいわれています。木魚は中国で生まれ、日本には江戸時代初期に黄檗宗（おうばくしゅう）の隱元禪師（いんげんぜんじ）というお坊さんが伝えたとされています。

Q お経を唱えている時、木魚と鐘の鳴らすタイミングが決まっているように思いますが、決まっているのでしょうか。また、それぞれの楽器（仏具）にはどうのような意味があるのですか。

A お寺の境内や本堂に行ってみるといろいろな音の出るものがあります。境内には梵鐘（ぼんしょう、大きな鐘）、本堂の中に木魚（もくぎょ）や鑿子（ケイス、鐘）、禅堂や回廊に木版（もくはん）などいろいろ音の出るものを見つけることができますね。是非見つけてください。このようなものを「鳴らし物」といいます。

梵鐘は、本来法要などの予鈴として撞くものですが、朝夕の時報として用いられています。例えば、午後五時に毎日撞くとか、行く年来る年に「除夜の鐘」を撞くなどです。

木魚は、お経を唱えながら同じテンポで叩いてリズムを整えることができます。「お経は耳で読みなさい」と指導されます。お経は読む者みんなが声を揃えて読むことが大切なですね。ところで、なぜ「木魚」と言つて「魚」が彫（ほ）られているのでしょうか。いろいろな説がありますが、魚は昼も夜も目を開いていることから、「人々を目覚めさせるため」とか、ま



お寺では「朝課・朝のお勤め」「お経のお唱え」と「晩課・夕刻のお勤め」「お経のお唱え」が本堂で行われていますので、一緒に参列してお参り下さい。

1 如来（によらい）・・悟りを開いた者の意味で、サンスクリット語（インド原語）で真実から来た者を表します。釈迦如来・阿弥陀如来・薬師如来などです。

2 菩薩（ぼさつ）・・悟りを求めて修行をしている者の意味で、如来の慈悲行（じひぎょう）を行い、衆生救済を実際に行なう者を表します。觀世音菩薩・地藏菩薩・弥勒菩薩などです。

3 明王（みょうおう）・・本来は如來の化身（けしん）で如來の命により、一切の魔障（ましよう）を打ち負かす事をします。サンスクリット語（印度原語）で真実を伝える者の意味です。不動明王・愛染明王・孔雀明王などがあります。

4 天（てん）・・サンスクリット語（インド原語）で超人的な神々を表し、古代インドのバラモン教やヒンズー教の神々を佛教が後に『佛教に帰依（きえ）』した神々として取り込んだものが多いです。梵天（ぼんてん）・帝釋天（たいしゃくてん）・毘沙門天（びしゃもんてん）などです。

お地蔵さまは寺院の境内や墓地の入り口、村の入り口、あぜ道などに安置

Q お地蔵さまって何ですか？誰かもデルがいるのですか？

A 仏像は如来、菩薩、天、明王の四つのグループに大きく分かれます。お地蔵さまは、正式に地蔵菩薩といい、菩薩さまです。

1 如来（によらい）・・悟りを開いた者の意味で、サンスクリット語（インド原語）で真実から来た者を表します。釈迦如来・阿弥陀如来・薬師如来などです。

2 菩薩（ぼさつ）・・悟りを求めて修行をしている者の意味で、如来の慈悲行（じひぎょう）を行い、衆生救済を実際に行なう者を表します。觀世音菩薩・地藏菩薩・弥勒菩薩などです。

3 明王（みょうおう）・・本来は如來の化身（けしん）で如來の命により、一切の魔障（ましよう）を打ち負かす事をします。サンスクリット語（印度原語）で真実を伝える者の意味です。不動明王・愛染明王・孔雀明王などがあります。

墓地の入り口などに、六体ならんでいるお地蔵さまを六地蔵といいます。

六地蔵とは、六体のお地蔵さまが地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天の六つの世界（六道）にいらっしゃって、それぞれの世界で苦しんでいるものたちを救って下さるお地蔵さまです。

お地蔵さまは『六道能化の菩薩さま』とも呼ばれています。能化とは、能く教え導いて、ご利益を与えて下さるという意味です。

Q お寺の名前は、どうやって決まったのですか？

A お寺の名前は「○○山 ○○院 ○○寺」というのが正式名称です。お寺を新たに建立するときに名前をつけることになります。お寺を開いた和尚さんを「開山さま」といい、そのお寺のお施主さんを「開基さま」と申して、この人たちがいろいろ考えて名前をつけます。

され、雲水（お坊さん・修行僧）の姿によく似ていますが、宝珠（ほうじゅ）を持って、額の中央に白毫（びゃくごう）があります。（お坊さんがモデルと思われます。）

頭を剃り丸坊主の姿をされていることは、「衆生の身近に居りますよ。」ということでしょう。阿弥陀如来は常に遙か彼方の極樂淨土に居られるのに対し、地蔵菩薩は身近に居られる仏様なのです。

とは、「衆生の身近に居りますよ。」とすることでしょう。阿弥陀如来は常に遙か彼方の極樂淨土に居られるのに対し、地蔵菩薩は身近に居られる仏様なのです。

「〇〇山」は、お寺の所在地を表わし、「〇〇院」、「〇〇寺」は、諸仏菩薩のお名前や経文、ご縁の深い人名などかられます。

私が住持しています大雄寺についてお話をします。大雄寺の正式名称は、「黒羽山 久遠院 大雄寺」といいます。このような名前がつけられたわけは、黒羽藩主大関氏とたいへん深く関係しています。

『今から約六〇〇年前、応永一一年

(一四〇四) 余瀬白旗城内に創建されました。その後、文安五年(一四四八)黒羽藩主第十代大関忠増により再建され、その後、大田原藩大田原資清との争いで第十三代大関増次敗死、大関家の後継第十四代高増(大田原資清の子)により、天正四年(一五七六)に本拠田原市前田現在黒羽城祉公園周辺)に移築しました。

大雄寺もこの時期に余瀬から移築し、大関高増の先代藩主第十二代大関増次(戒名:久遠院殿超山道宗大居士)を中興開基(再興したこと)。お施主さまとし、在室玄隣大和尚を中興開山(再興したこと)。お寺を開いた和尚さんは、として黒羽藩主大関氏の菩提寺となりました。

所在地を表わす山号が「黒羽山」、

大関高増が先代藩主大関増次の菩提ために戒名から「久遠院」とし、お釈迦

さまを偉大なるお方と讃えることば「大雄(ダイオウ)」から「大雄寺」というお寺の名前がつけられました。

お寺の正式名前を知ることは、その歴史や由来を知ることができます。どうぞ、お近くのお寺や菩提寺の和尚さんに尋ねてみてください。

Q 「悟り」とは、いったいどういうことですか。「悟りを開く」とよく耳にしますが意味が分かりません。

A 悟りとは、物事の真の意味を知ること。仏教では、迷妄を払い去って生死を超えた永遠の真理を会得すること。悟りを開くとは、心の迷いが解けて、真理を会得することです。

悟りは、インド原語サンスクリットでは「ボーディ」といい、日本語では「菩提」「開悟」とも言います。悟りを開いた者を「ブッダ」とい、漢字で音写し「佛陀」「覺者」と意訳したりします。

大本山永平寺前貫首宮崎奕保禅師さまが、「死ぬ覚悟の出来ていることを悟りと誤解している人が多いが、悟りとは命ある限り平気で生きることである。」といわれました。一般に禅宗における悟りとは、生きるもの全てが動物を相手にしておったんでは、めしの食いあげだ。こんなものにかかわらないで、本来の仕事を続けよう」と、きこりは考えた。

曹洞宗開祖道元禅師は、眞の体験的修行によって得られた悟りの世界を

『正法眼藏』として示されました。

「荒磯の浪もえよせぬ 高巖にかきもつくべき 法ならばこそ」その意は激しい荒波も寄せつけぬほど高い岩に牡蠣貝がついている、仏の教えというのも高くけわしく道を学ぶのに困難はともなうであろうけれども、精進弁道することによって不思議な力が働き、仮性を現前することができる」というような歌であります。

一人のきこりが斧で木を伐るうと、山深く入ったら、さとりという珍しい動物が姿をあらわした。きこりがこれを生け捕りにしようと思うと、さとりは直ちにその心を読み取り、「俺を生け捕りにしようというのかネ」という。きこりがびっくりすると、「俺に心を読まれて、びっくりするとはお粗末な話だ」という。

「ええ、こしゃくな奴。斧で一撃のもとに殺してやろう」と考えた。するとさとりは、「こんどは俺を殺そうというのか。いやー、おつかない」と、からかうようにいう。

「こりゃーかなわん。こんな不気味な動物を相手にしておったんでは、めしの食いあげだ。こんなものにかかわらないで、本来の仕事を続けよう」と、きこりは考えた。

するとさとりは、「俺をあきらめたのか。かわいそうに!」といった。

きこりはこの不気味な動物をあきらめて、再び元気をだして木を伐ることに没頭し、力いっぱい斧を木の根元に打ちおろした。額からは玉なす汗が流れ、きこりは全く無心になった。

すると、偶然、全く偶然に、斧の頭が柄から抜けて飛び、さとりにあたり、おかげでさとりを生け捕りにすることができたという。

きこりの心を読み取り、きこりをからかうことができなかつた。

Q 葬儀の時、参列者を見ると数珠を持つている人、持っていない人がいますが、数珠を持っていた方がいいのでしょうか。また、数珠にはどのような意味があるのでしょうか。

A 数珠は念珠とも言われ、仏さまを合掌礼拝するとき手にかけるもので、仏教徒のシンボルです。仏式の行事である通夜や葬儀・告別式の会葬に参列する時や法要(法事)に出席する際には、欠かせないものです。

人間には百八の煩惱があり、その煩惱を消し、清めるために数珠を用いるといわれています。珠の数は百八個が基本とされていますが、百八個では大きく重くなってしまいますので、四個、三十六個、二十七個、十八個などもあります。

本来、その名の通り「数をかぞえる珠」という意味であり、お念佛を一回

となることに珠をひとつずつおくつていいく、回数を数える役目をしていきます。

数珠の種類

数珠の材質は、菩提樹の種子が最高とされていますが、これはお釈迦さまが悟りを開いたのが菩提樹の下であったことからいわれているようです。

各宗派によって特徴がありますが、一般に市販されている略式のものは、どの宗派でも共通です。男性用は珠が大きく、紫檀、黒檀、菩提樹などが用いられ、女性用は珠が小さく、琥珀、めのう、菩提樹、珊瑚、水晶、などからできいて、紫や茶色の房や梵天がついています。

数珠の使い方

右手は信仰の道を歩む私たちの世界を表し、左手は清浄な仏さまの世界を表しているという仏教の教えから、一般的に数珠は左手を持つものとされています。合掌する時の数珠の持ち方は、合わせた両手の親指と人差し指の間に数珠をかけて、挙めるようにしましょう。

Q 話題の「千の風になつて」という歌の中に次のような一節があります。

「私のお墓の前で 泣かないでください
ここに私はいません 眠つてない
かいません」とあります。亡くなつた方は、「お墓の下にはいないのですか？」
「千の風になつて」この歌を訳された作曲家新井満氏が次のように語つ

ています。

『千の風になつて』という曲は、いのちというものは死んでから、風になつたり、光になつたり、鳥になつたりして再生していくと歌っています。

その結果、お墓参りとは縁のない歌だろうと誤解される人が出でてきます。しかし、それは私の本意とはまったくちがいます。お墓参りをしない理由に

『千の風』のせいにするのは困るなあ、むしろお墓参りをどんどんしてほしいなあ。それが私の本当の気持ちです。』

「日本人はしばしば死んだら土に帰ると語ってきましたが、単に土に帰るだけではない、もつと大きな広がりをもつ大自然に帰るということです。

それでは、お墓というものは一体何かと言いますと、私は亡くなつた人々のとりあえずの現住所なのだと考えています。現住所がなければ、どこにお参りしていいかわかりません。再生したいのちは、世界中のいろいろな場所に偏在していて、もちろんお墓にもいらっしゃる。ただ、四六時中いつもお墓にいらっしゃるというわけではないでしょうね。

お墓とはとても重要な場所なんです。お墓という現住所があるから、死者と対話したいと思う人はいつでもそこを訪ねることができます。

四季社「寺族春秋」より

お墓とは

たった一度しかいただくことのできない親から ご先祖から いたいたことができよかつたです この生命を この肉体を いのちからだ

いたいたことができよかつたです この命を この肉体を いのちからだ

古代中国では、国家の大切な政治（祭りごとの取り決め）や農作物の種まきの時期、その年が豊作か凶作か、天候が安定か不順か、飢饉や天災の有無などを占う陰陽五行思想がありました。天文や暦や占いなどの立派な学問あります。陰陽道の暦で「六曜」と言つて六つに分けて、先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口として吉凶を決めました。

その一つの友引は「勝負しても勝ち目なし」という日とされるのですが、文字から解釈するような「友達を引張る」という意味はないのです。

昔からの風習で「友引」は、「お葬式をしない日」として定着してしまいましたので、友引の日は、斎場（火葬場）が休みとなり、斎場にとつても都合の良いこととなっています。また、寺院の集会や僧侶の研修会なども友引の日を予定することが多いのも事実であります。

「友引」の迷信が、科学の発展や医学の進歩がめざましい今の時代に「お友達を引っ張るから」というような迷信があることが定着してしまっているのも、ある意味では日本の文化なのかも知れませんね。

A 「友引」の日に葬儀を行なうと、友を引き寄せて一緒に冥土に連れて行く」ということは、迷信から起こつた風習です。

「友を引き寄せて一緒に冥土に連れて行く」ということは、迷信から起こつた風習です。

あなたも一緒に坐りませんか。坐禅は、心静かに身を正し、呼吸を調えひたすら坐ること。苦しいものでも辛いものでもありません。しかし、なかなか一人では続けられないものです。

大雄寺プチ修行

《朝の修行》

午前 6 時15分	上 山
6 時30分	暁天（朝の坐禅） 禅堂
7 時	朝課（朝のお勤め・回向之証授与） 本堂
8 時	作務（堂内外の清掃） 本堂・禅堂
9 時	下 山

《夕刻の修行》

午後 2 時45分	上 山
3 時	作務（堂内の清掃）
3 時30分	夜坐（坐禅） 禅堂
4 時30分	晩課（夕刻のお勤め・回向之証授与） 本堂
4 時55分	大梵鐘八声
5 時15分	下 山

● このプチ修行を希望される方は事前にお申し込みください。

なお、「三心庵」を利用してプチ修行に臨むことができます。「三心庵」は、修行者のための施設です。

大雄寺日曜坐禅会

毎月第2・第4日曜日開催

※初心者はプチ修行の体験が必要です。

午前 7 時30分	坐禅 禅堂
8 時15分	作務 本堂・禅堂
8 時30分	茶話会
9 時	下山

「三心庵」とは、修行施設として備えたゲストハウスです。

曹洞宗開祖道元禅師の典座教訓から喜心、老心、大心の三心から命名しました。

三心とは、

喜心とは、仏さまとそのみ教えと行する人を尊び、巡り会えた因縁を感謝し、他人の利益に供する 喜びをもって勉める 喜悦の心をいいます。

老心とは、父母が切々と子を思い、我が身の寒さや熱さをうち忘れ、子のすこやかなことを願いながら 慈しみ育てるような親切な心をいいます。

大心とは、たとえば大山や大海のように高く、広い思いをもち、一方に片寄ったり固執せず 差別することのない 平等で大きな心をいいます。

平成21年の行事

1月1日より	初 謁	10月1日	大施食会
2月3日	節分会	12月18日	観音祈願法会
2月22日	白旗不動尊大祭	12月31日	除夜法会
3月17日～23日	春彼岸会		
5月1日より	牡丹開花	毎月第2・第4日曜日 午前7時30分より	
5月8日	花まつり		……… 坐禅会
5月10日	第10回牡丹コンサート開催	毎月第1火曜日	…………… 婦人読経会
6月8日	大般若法会	毎月第1火曜日	午後1時30分より … 写経の会
8月13日～16日	盂蘭盆会	毎月第2・第4水曜日	…………… ご詠歌教室
9月20日～26日	秋彼岸会		隨時拝観、法話、坐禅研修会を開催しております。

大雄寺ホームページ 詳細説明、一口法話、お知らせページ、掲示板など掲載

URL:<http://www.daiouji.or.jp/> E-mail:ryoyu@daiouji.or.jp